

(別添3)

【草加市】 校務DX計画

1 校務DX化に向けた現状と課題

(1) 業務の在り方の見直しの視点

令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検においては、『問10 児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか』という項目に対して全くしていないが53.1%、『問21 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか』という項目に対して全くしていないと一部しているが半分未満を合わせると71.9%となり、業務のデジタル化の余地はまだまだ残されています。

また、『業務にFAXを使用しているか』という項目では90%以上が現在も使用していると回答しており、緊急連絡という用途でFAXが残り続けています。

(2) パブリッククラウドサービス利用の現状

学校から保護者への手紙等の配信、中学校への自動採点システムの導入、授業における協働学習アプリの活用などでパブリッククラウドサービスを利用しています。保護者や学校の利便性や効率性をさらに高めるために、教育委員会として様々なサービスを利用できるよう整備を進めてまいります。

2 更なる校務DX化に向けて

本市では、教職員用コンピュータ及び統合型校務支援システムを入れ替えるとともに、ネットワーク環境の変更を行い、令和7年4月より新たに運用を開始する予定です。学習系及び校務系のネットワークを統合し、教職員は1台の端末で教務・校務の両方ができる環境を構築しました。そのため、フルクラウド・ゼロトラスト環境の構築と指導者用の1人1台端末の整備というハードルをクリアいたしました。

また、Microsoft Teamsを活用したコミュニケーションやファイルの共有、クラウド上での文書の共同編集、各種発出文書の回覧のシステム化、保護者連絡システムからの欠席連絡を受けた出席簿への連携などの運用を開始していきます。

それに併せて、令和7年3月に「草加市教育情報セキュリティポリシー対策基準」を策定し、クラウドサービスの利用や、クラウドへのデータ保管に際しての基準を明記します。

以上の更新について、草加市小中学校情報教育推進委員会などを通じ、校務DX化の成果と課題について検証してまいります。

3 校務DX化加速のための今後の計画

(1) 校務での生成AIの活用

校務で生成AIを活用する教職員を、令和8年度末までに70%以上を目指します。

(2) ペーパーレス化

緊急連絡においてもFAX廃止に向けて検討を行います。また、会議等の資料をグループウェア機能での共有、研修のオンデマンド化や発出文書の電子決裁システムの積極的な活用などについて研究します。